

『恥ずかしい平和大通り』

グラフィックデザイナー 川原信子

平和大通り。四季折々に150種類の樹木が見る者を癒してくれています。

ある日、車で通った時に目を疑いました。この光景は？ アノ、イルミネーションのセットがまだ10月の半ばというのに、むき出しのシルバーの骨組みに赤いカラーコーンが置かれ、それにロープが張られ、憩いの通りが工事現場と化していました。グリーンベルトに目立たないといけない役目をもつ赤のカラーコーンの点在は見にくくて仕方ありません。

10月25日前後だと思のですが、何と大きな白い雪の結晶が鎮座しているのではないですか。それにあのピンクの花の造り物が今年も早々とセットされています。丁度、白神神社の秋の大祭が行われている時期にイルミネーションとの抱き合わせに我慢できず、市役所の環境政策の担当者に抗議の電話をかけました。このように直接電話を掛けたのは、後にも先にも初めてのこと。広島市民としてあまりに恥ずかしかったので……。

返ってきた答えです。「140万個の電球をつけるのに時間を要するので……」(11月17日から始まるイルミネーションの時期も大いに疑問を持っているのですが。)しかし大きなセットのモノでも2~3日で完了しています。どのように解釈すればいいかわかりませんでした。挙句の果ては「今や旅行会社とタイアップして年末の目玉商品として定着している。それに広島はほかの都市圏に比べて観光客は多い……」その答えの背景には、このような事例があるから観光客が増えている……そんな回答をいただきました。

反論することも力が抜けてしまい、これが現状と思うと、ふと思い出した言葉があります。先日お亡くなりになられた広告批評で有名な天野祐吉さんが20数年前に広島で講演された時に「広島は全国でも文化度の低い下から2番目」というコトバです。今やよくぞ言ってくれました。正におっしゃる通り。あれからもっと悪くなっているかもしれません。広島への欧米人の観光客の比率が日本一で、中でもフランス人が多いと聞いています。アノ、シャンデリゼ通りの美しく統一されたイルミネーション。神戸のルミナリエは鎮魂がテーマですよね。平和大通りで繰り広げるのであれば1点集中型の圧倒する大きなモニュメントを設置。東西の通りに向けたタテのラインを強調させたものでパラパラ点在さすのはやめて、向かう先は平和公園。明日へつなぐイルミネーションとして。そして色も統一。

観光都市 HIROSHIMA とうたうのであれば、もっともっと質の高い HIROSHIMA ブランドを構築すべきと密かに願う一人です。ほっとコーナーにベリーホットなおハナシをさせていただきました。それでは、まずおいしい紅茶をいれて気分を沈めて……仕事モードにチェンジすることにします。



『我が家の動物』

心豊かな家庭環境を創る広島21理事 高東博視

1 我が家の亀は22年になる。子どもがアルパークで百円玉ほどのミドリ亀二匹を買ってきた。今では体長15~20cm程ある。「ララ」「リリ」ちゃんと名前もある。子ども達も我が家を巣立って私が飼育係になった。数年前「リリ」が首に大怪我をしているのを見つけた。亀が水槽の中で喧嘩をしたに違いない。直ぐにあちこちの動物病院に電話してみたが亀はどこも相手にしてくれない。思案の末に安佐動物園に電話してみた。幸いにも可部に爬虫類専門医院があると教えられた。五日市から可部まで片道1時間。亀をダンボール箱に入れて2回通院した。20年以上も一緒だから亀も家族の一員。情が湧き一生懸命になる。毎日、傷口にヨーチンを塗り、水替えを頻繁にして1カ月余で治った。



二匹を一緒にしていると又喧嘩する。近くの川に逃がしてやると亀も喜ぶだろうと医師に相談してみた。「生態系を壊すからやめなさい」と見事に強く諭された。妻の先輩の話聞いてビックリしたことがある。亀(クサガメ)が布団に入ってきて仲良く一緒に寝るのだそう。

2 「コト、コト、コト・・・」階段をゆっくり上がって来る。「ガリ、ガリ、ガリ」二階の寝室のドアを引っかく。こうして毎朝、柴犬「モモ」が散歩の催促をする。生後2カ月で我が家に来て11年になる。昼間は庭にいるが夜は必ず家の中で家族と一緒に。せっかく買った犬小屋は全く役立っていない。家族が帰宅するとペットボトルをくわえ、全身全霊で歓迎してくれる。亀の水替えの折は庭に「リリ」「ララ」を放す。「モモ」はこの見張り番で安心だ。油断すると茂みに入った亀を見失うが、匂いを嗅いで直ぐに探し当ててくれる。昨年、乳腺腫の手術をして体調を崩すことが多くなってきた。

近年はペットブームと云われる。「喜怒哀楽を共有できる」「愚痴も聞いてくれる」ペットは口が堅いから大丈夫だそう。動物の世話は手がかかるが、それ以上に家族を癒してくれた。いつまでも見守ってやりたい、いや見守られているのかも知れぬ。

『困った息子』

アステック代表取締役社長 岩重律子

我が家には(自称)戦場カメラマンという困った息子がいます。一昨年の夏、シリアで音信不通となり、私は死ぬほど心配しました。“仕送りをとめるぞ!”と脅すまで、7年間大学に在籍し、東南アジアをうろついた末、やっと卒業。しかし、就職難の中、就職活動もせず、半年あまりを無為に過ごしました。見るに見かねて、“進路を決めぬなら親の会社に就職しなさい!”と言うが早いか、派遣会社で働き始めました。真っ黒になり、筋肉痛に苦しむ程の重労働をしていましたが、半年後“貯金できたから仕事や~めた”と言い残し、またもや海外に行ってしまいました。



右が息子です

戦時下のシリアで自由シリア軍と一緒に行動したらしく、テロに同調しているのではないかと疑われ、公安のお役人さんが私のところに、調査に来ました。アレッポでジャーナリストの山本美香さんが撃た

れて亡くなるというニュースは流れているし、息子からは連絡もないし、死んでしまったのではないかと、涙の出ない日はありませんでした。

無事帰国した息子の記事を週刊新潮が取り上げてくれましたが、原稿料で食べていけないことは十分わかった筈なのに、まだ、戦場カメラマンを気取っているのです。ほんとに困った息子です。現在はイスタンブールに留学中なのですが、何ととっても、すぐにシリアに行ける場所なので、心配は尽きません。

第11号(平成26年5月15日)

『スキューバダイビング』

服部設計室社長 服部幸雄

50の手習いという言葉があるが、本当に50歳になってからスキューバダイビングを始めました。学生時代に興味を持ったのですが、私は泳ぎが出来ないのであきらめていました。50歳になって娘と一緒に始めようと言い出したのでやってみることにしました。泳ぎは水に浮かなければいけないのですが、ダイビングは水に潜るので浮いてはいけないわけです。これならできると頑張っ、Cカード(講習済み証)を取得しました。



海の中で1時間近く潜ったまま海中散歩が出来るのは本当に楽しいものです。ハワイやグアムで潜ったときには、ウミガメが遊びに来てくれ一緒に遊んでくれることもありました。まるで竜宮城に連れて行ってくれるような気になります。ダイビングをするというと貝や魚を捕ってくるように思われがちですが、大部分のダイバーは、海の中を見ることで満足しています。カメやマンタのように大きなものからコイワシの群れや体長が1cmか2cmの小エビのような小さなものまで、海の中はいろんなものがいてダイバーを楽しませてくれます。海の中は危険も付きまといますが、これからも体力が続く限り世界の海で続けていきたいと思っています。

第12号(平成26年7月15日)

『フルムーン旅行』

エル設計 折見保則

先日、梅雨空の中、東北旅行に出かけた。広島から秋田までは新幹線、秋田からはバスに乗って、男鹿半島、津軽半島、下北半島そして三陸海岸を回り、角館に到着。角館から広島までは新幹線という行程である。広島から秋田までが約1500km、バスに乗っている距離が約1100km、帰りの距離を合わせると約4000kmの旅であった。



北山崎の展望台から

太平洋を望む

東北地方にはいたるところに温泉があり、新鮮な食材がある。美味しいものを食べながらの温泉三昧旅行であった。見る所もたくさんある。五能線に乗って世界遺産の白神山地、十二湖を見た。能代地震により川がせき止められ33個の湖ができたが、12個に見えるとして十二湖と名付けたという。中でも青池が有名であるが、なぜ青いのかは解明されていないという。

天気がよければ、竜飛崎から北海道が見えるらしいが、あいにくの空模様で霧も深く、北海道が見えないだけではなく、「やませ」のおかげで寒かった。

『昔の事』

アルテス広島事務所 松島日出雄

今は廿日市に住んでいるが、生まれ育ったのは西区の庚午北町である。父は鋼材販売の会社で働いており、旧2号線(当時は観光道路と呼んでいた)に面して会社の鋼材倉庫があり、その一部が住居であった。鋼材は馬車で運んでいたが、そのうち3輪トラックに代わっていった。

観光道路はまだ行きかう車も少なかった。進駐軍の部隊が休憩で家の前に止まり、兵隊たちの陽気さに、物珍しさから近寄っていくと、キャンディをくれたのを覚えている。三つ四つの頃だと思う。観光道路は己斐の手前に別れの茶屋で東に折れ、観音につながっていた。現在の新己斐橋たもとから広電の己斐駅にかけては、狭い道路の両側にバラックの商店街が連なり、買い物客で活気に満ちていた。当時在った映画館はいつも満員であった。

庚午は、そのころ、蓮田やイモ畑が広がり、庚午中学校は芋中と呼ばれていた。その畑の中を走り回り、一緒に遊んでいた従兄が肥溜めに落ち、いくら洗っても匂いが取れなかった。夏は近くを流れる太田川に飛込みの櫓が組まれ、町内で見張番をしていたように思う。堤防はまだ道路でなく自然のままであった。まだ広島に7つの川があったころである。太田川といえば、観音グランドで行われていた国体を見に行くのに、渡し船に乗って渡っていった。調べてみると3歳のころであった。観音グランドの座席に、藁で編んだ俵の蓋のような丸いクッションが無数に置いてあったのを、なぜか覚えている。

市の中心部の記憶では、円形のガラス張りで、コンクリートシェルの児童図書館は、子供心にも印象深い建物であった。

写真は、父の職場近くの本川岸で、父が撮影したものであるが、向こう岸は原爆ドームだけがある。



4歳の頃

『父のこと』

鹿島建設(株)中国支店 神岡千春

私の父は今年で86歳、一人暮らし歴20年である。幸いなことに大きな病気に縁がなく、週一のゴルフ、趣味の写真撮影にほぼ毎日車で出かけて行く。シロイルカを撮りにアクアス日帰りなんて珍しくない。私の母は25年前に癌を患い突然死んでしまった。実際は随分前から悪かったらしいのだが、一人娘が結婚するまではとがまんしていたらしい。それから始まった、日本の高度成長を支えた世代一まじめ人間の父と甘やかされて育った過保護娘の共同生活。口数も少なく仕事ばかりの父とはなんだかよそよそしくて、なんで父さんなんかと一と途方に暮れたものだったが、多分父も同じ気持ちだったと思う。

父が住んでいるマンションは私が設計した建物で、第一号の入居者になってくれた。今では毎週日曜の夜、父の家で主人と3人食卓を囲みいろいろな話をする。仕事やその人間関係で悩む私に、自分の経験を添えながら的確な助言をくれたり励ましてくれたりもする。車のエンジンの設計技術者だった父は、後輩達の挑戦を自分の事のように嬉しそうに話す。ただの仕事人間のように見えていたが、自分の好きな事を思いをかけて純粋に打ち込んできたのだなど、父の生き方を誇りに思えるようになってきた。楽しそうに新型デミオに乗り換える準備をしているのは、少し心



マッサンの生家竹鶴酒造前
父とのツーショット

配ではあるけれど。

毎日仏壇の花を絶やさないと父だが、自ら母の事を話題にする事はない。母を病気で死なせてしまった事を今もまだ受け入れる事ができないのかな。あと7年、33回忌には長岡のお寺にいるお母さんに会いに行きましょう。これからも元気でいてください、お父さん。

第15号(平成27年1月15日)

『ヨガの風景』

アトリエトライアウト代表 細見 恵

昨年の夏からヨガを習い始めた。そろそろ半年になるが、まだ習うというより言われる通りに呼吸し身体を動かしていると行った方が良い感じではある。ヨガはずーっと前に一度行って以来で、鏡に向かって大勢でやるのはちょっとと思っていた。後ろの方でちょこちょこやっていたら「ハイ」と振り返って一番前になって慌てたというエアロビ体験を思い出してしまう。

それが、マンツーマンで時間は相談でやってくださるので、重たい腰が上がった次第である。最初に自分に課したのは、無理に覚えなくてリラックスすることである。やり始めて感じたのは全てが大丈夫だったということで、呼吸と身体の動きを集中し、緩急をつけて行なうので、きついポーズをしても翌日筋肉痛ということがない。最後のシャーバサナ（屍のポーズ）の5分は、眠っているのかいないのかわからないうちに終わり、身体がスーッとさっぱりした感覚が残る。無理なく続けられている。

先日建築見学ツアーで立寄ったあるホテルのラウンジで、若い女性が2人でヨガをやっているのを見かけた。夕焼けの海に向かって広がったウッドデッキ・ラウンジで、お茶を飲んだり本を読んだりする人々の様々な動きの中で、違和感なくヨガの動作が溶け込んでいた。いつか自ら身体の要求する動きがわかるようになればと思っている。



広橋先生のヨガのしつらえ
(翠のヨガマット)